

効率よく密度の濃い時間を過ごす

●学生たちだけでなく我々にも言えること！

先日、春日部地区浦高会の小澤重二さん(高 11、野田市在住)から「香田さんは、根本会長がタウン誌に書いているコラムを知っていますか？ 2月号には浦高ラグビー部のことが載っています」とのお電話をいただきました。春日部も対象エリアに入っているタウン誌『月刊とも』ですが、見たことがないので送っていただくと次のようなコラムでした。

◇ ◇

■根本崇の日日是好日

年末の12月27日、大阪の花園ラグビー場に行ってきた。にわかファンですが、6大会ぶりに全国大会に出場した私の母校、県立浦和高校の応援のためでした。野田市駅発5時53分、日帰りの強行軍でしたが、寒い中無理して行った甲斐があり、母校の花園初勝利を見ることが出来ました。2回戦も勝ちベスト16に進み、3回戦で今年度優勝校の桐蔭高校に敗れましたが、大健闘でした。▼うれしくて、市内でこの話をしたところ、「スポーツ推薦入学枠があるのですか」と聞かれました。「そうではない」とお答えしましたが、実際、部員のうち中学時代の経験者は数名でそうです。▼浦高というと全国屈指の公立進学校でもあり、勉強ばかりしていると思われがちですが、校訓は文武両道を意味する「尚文昌武」であり、多くの生徒がそれを実践しており、現在9割を超える学生が、部活等に参加しているそうです。▼それでは、どのようにして学問との両立を図っているのか。全体練習は週5日で1日2時間半と決めているそうです。短時間で自主性をもって練習し埼玉県の代表になりました。学習については、自習のために教室が開放されており、部員がお互い助け合っているそうです。▼私の市長時代、教育の現場では、部活と学問の両立をどう量るかということが大きな課題の一つでした。私は解決策を見いだせませんでした。▼浦高ラグビー部が行ってきたことが、その解決策のヒントにならないか。特別なケースではないかという批判もあるかもしれない。私もこの話を聞いた時にそう思いました。しかし、私が浦高に入学する数年前、サッカー一部が全国制覇をしていましたが、同じことを当時の監督から聞いた覚えがあります。「時間をかければいいということではない。いかに効率よく密度の濃い練習をするかだ」▼この話を市長時代にしたかったが、自信がなかったので政策として打ち出すことができませんでした。現職を離れ、肩の力が抜けた今になって余計なことを言うなといわれるかもしれませんが、浦高ラグビー部の成果を見て、試してみる価値はあるのではないかとこの思いを強くしました。

◇ ◇
昨年9月の春日部地区浦高会総会後の講演で小島克也浦高校長(高30)が語られた「浦高の部活動方針」から、ご自身の現役時代の政策に重ねて「部活と学問の両立」に思いが届くとは素晴らしいですね。



■課題解決への具体的な一手

部活動について、生徒との面談で分かった課題を解決するためにとった「部活動方針」についてお話しします。

■部活動の活動方針

【基本的な理念】

生徒に心と体の余裕を与えることのできる部活動を目指す

【具体的な方針】

全体の強制練習は、週5日以内とし、最低2日は、一人一人の自由な時間として保証する

というものです。▼これは3年生との面談の中から課題として浮かび上がったことなのですが、「勉強も部活動も好きなのですが、授業の課題、部活動の時間が強烈で辛い。中学時代は自分の好きな分野の本を読む時間があっただけけれども、今はその余裕がない」という意見でした。授業の課題は大切だし、部活動も一生懸命に取り組んで上を目指してくれる姿は大切だけれども、余裕のない忙しさって何だろうかと考えました。▼生徒たちにタイムマネジメントを学ぶことの大切さをどう伝えようか、授業と部活をやり続けながらも、人間としての幅を広げる読書や趣味をする時間を作ることができないかと考えた結果たどり着いた結論が部活動の強制練習5日制でした。▼春日部地区浦高会の活動の中で名前の出てきたピアニストの追川礼章君は、元々陸上部で古河マラでは10位以内に入る選手でした。そんな彼は、部活の陸上を頑張りながらも、大好きな音楽も続けて藝大に入り、現在はプロのピアニストとして活躍しています。元々陸上部の強制練習は週5日制だったそうです。そこで、彼は自由な2日間をピアノの猛練習に励んだようです。▼教員や生徒たちには丁寧に話したのですが、当然反対もありました。「校長は自分たちが自主的にやっている部活動にまで干渉するのか。部活動を弱くするのか」というようなものでした。それに対して私は「部活動も勉強も一生懸命にやって欲しい。さらに2日は自分たちがやりたいことをやってもらいたい。部活動で自主練習をやりたいという人は今まで以上に部活動に時間を費やしても構わないし、それ以外の生徒たちは自分の趣味の時間を過ごしてもらおうように強制練習を5日制にしよう。効率的な時間の使い方をそれぞれが考えよう」と話しました。〔…後略〕。【小島校長の講演より引用】